

きいて・めもして・こたえよう

いのち じゅぎょう 命の授業（じょさん 先生の話し）

なまえ 名前

聞くめあて いのち 命についての「事実（分かっていること）」と、川口さんの「思い（考え）」を、分けてメモしましょう。

ことば じじつ おも すうじ
おとさない言葉：事実・思い・数字

ほうそう 放送が終わったら、ひらいて問題に答えましょう。



やまおり

(1) 川口さんは、これまでに、何人以上の赤ちゃんのたん生に、立ち会ってきましたか。

(2) 生まれたばかりの赤ちゃんの体重は、およそどれくらいだと言っていましたか。

(3) 次のうち、川口さんの「考え（思い）」が書かれているのはどれですか。○をつけましょう。
ア 赤ちゃんは、おなかの中でおよそ十か月かけて育つ

イ 一つ一つの命は、とうとう
ウ 生まれてすぐ、自分の力で息を始める

(4) 体の弱い赤ちゃんが元気におっぱいを飲んだとき、川口さんはどうしましたか。

(5) 命について、川口さんに聞いてみたいことを「しつもん文」で一つ書きましょう。

すすめ方

- ① 中央の点線で山折りにして、「めも」の面だけを表にする（問題を先に見せない）。
- ② この放送文を先生が読む（または用意した音声を流す）。読む回数：1回。聞きながらメモを取らせる。
- ③ 放送が終わったらプリントを開き、メモを見ながら問題に答えさせる。

放送文

今日は、赤ちゃんの、たん生を、手助けする仕事をしている、じょさん師の、川口さんのお話です。川口さんは、これまでに、三千人以上の、赤ちゃんの、たん生に、立ち会ってきました。命の、大切さについて、話していただきます。

川口さんは、まず、赤ちゃんが生まれてくるまでの話をしました。「赤ちゃんは、お母さんのおなかの中で、およそ、十か月かけて、育ちます。生まれたばかりの赤ちゃんの体重は、およそ、三千グラム。そして、生まれてすぐ、自分の力で、息を始め、力強く泣きます。」

「一つの命が生まれるのは、けっして、当たり前のことではありません」と、川口さんは言います。「小さな命が、無事に生まれてくるまでには、たくさんの人の、ねがいと、支えがあります。だからこそ、一つ一つの命は、とうといのです。」

川口さんには、わすれられない、思い出があります。「体の弱い赤ちゃんが、生まれたことがありました。みんなで、必死に、見守りました。数日後、その子が、元気に、おっぱいを飲んだとき、わたしは、うれし泣きしました。命の力の、すごさを、感じたしゅん間でした。」

川口さんの話を聞いて、自分が今、生きていることの、すごさに、気づきました。「命を、大切にしよう。」そう、強く、思いました。

メモのれい

命の授業・じょさん師の川口さん（三千人以上のたん生に立ち会い）

事実：おなかの中で約十か月→体重およそ三千グラム→生まれてすぐ自分の力で息・泣く

川口さんの考え：一つの命が生まれるのは当たり前でない／命はとうとい

思い出：体の弱い赤ちゃんが元気に→うれし泣き（命の力のすごさ）

こたえと かいせつ

（1）三千人以上

「これまでに、三千人以上の、赤ちゃんの、たん生に、立ち会ってきました」の部分です。

（2）（およそ）三千グラム

「生まれたばかりの赤ちゃんの体重は、およそ、三千グラム」と言っていました。

（3）イ（一つ一つの命は、とうとい）

アとウは分かっている「事実」です。イは川口さんの「考え（思い）」です。

（4）うれし泣きした（命の力のすごさを感じた）

「わたしは、うれし泣きしました。命の力の、すごさを、感じた」と言っていました。

（5）（例）赤ちゃんが生まれるしゅん間は、どんな気持ちですか。／大変だったことは何ですか。

命の話に関係する「たずねる文（～ですか。）」になっていれば正解です。